

# 【業績集】

## 1. 書籍、雑誌

北川カズ美:周術期管理チームでオペナースができること(前編), オペナেশン 2021;Vol36:56-59

北川カズ美:周術期管理チームでオペナースができること(後編), オペナেশン 2021;Vol36:55-59

## 2. 学術論文

Yokogawa Hideaki, Kobayashi Akira, Mori Natsuko, Nishino Tsubasa, Nozaki Haguku, Sugiyama Kazuhisa: Intraoperative optical coherence tomography-guided nanothin Descemet stripping automated endothelial keratoplasty in a patient with a remarkably thickened cornea, Am J Ophthalmol Case Rep, 2022 Feb 10;25:101414. DOI: 10.1016/j.ajoc.2022.101414.

Yokogawa Hideaki, Kobayashi Akira, Takemoto Yuko, Mori Natsuko, Wajima Ryotaro, Nishino Tsubasa, Sugiyama Kazuhisa: Development of Cytomegalovirus Corneal Endotheliitis During Long-Term Topical Tacrolimus and Steroid Treatment for Chronic Ocular Surface Inflammatory Diseases, Cornea, 2021 Nov 1;40(11):1491-1497. DOI: 10.1097/ICO.0000000000002674.

Ye Yunyan, Mori Natsuko, Kobayashi Akira, Yokogawa Hideaki, Sugiyama Kazuhisa: Long-term outcomes of Descemet stripping automated endothelial keratoplasty for bullous keratopathy after argon laser iridotomy, Jpn J Ophthalmol, 2021 Jul;65(4):454-459. DOI: 10.1007/s10384-021-00832-w. Epub 2021 Mar 16.

Nishino Tsubasa, Kobayashi Akira, Mori Natsuko, Yokogawa Hideaki, Sugiyama Kazuhisa. Clinical Evaluation of Electrolysis for Reis-Bücklers Corneal Dystrophies and In Vivo Histological Analysis Using Anterior Segment Optical Coherence Tomography, Cornea, 2021 Aug 1;40(8):958-962. DOI: 10.1097/ICO.0000000000002541.

## 3. 学会・研究会・講演会演者

荒木 勉(座長):金沢西地区薬剤師合同勉強会, 2021年4月, 金沢.

荒木 勉(講演):病院裏の駐車場から「いしかわ PCR 検体採取センター」へ～当院が果たした役割について～, 循環器領域セミナー in 北陸, 2021年9月, 金沢.

荒木 勉(講演):循環器内科医からみた糖尿病治療, 金沢西地区薬剤師合同勉強会, 2021年11月, 金沢.

木田明彦(発表), 代田幸博, 酒井明人: 良性膵管空腸吻合部狭窄に対する endoscopic retrograde pancreatic drainage の検討, 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会 WS7 胆膵内視鏡診療におけるトラブルシューティング, 令和 3 年 5 月 14 日から 16 日, 広島県広島市.

竹田康人(発表), 方堂祐治, 代田幸博, 若林時夫, 上田善道: メトレキサートの関与が推測された炎症性偽腫瘍の一例, 日本消化器病学会北陸支部 第 131 回支部例会, 令和 3 年 6 月 6 日, 富山県富山市.

竹田康人(発表), 方堂祐治, 代田幸博, 若林時夫, 富田剛治, 今井哲也, 上田善道: EBL による止血が困難であった回腸憩室出血の一例, 第 116 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会, 令和 3 年 6 月 27 日, オンライン開催.

竹田康人(発表), 方堂祐治, 代田幸博, 若林時夫, 富田剛治, 今井哲也, 上田善道: 主膵管の限局性狭窄像を伴い浸潤癌との鑑別を要した IPMC 非浸潤性の一例, 日本消化器病学会北陸支部 第 132 回支部例会, 令和 3 年 10 月 24 日, 石川県金沢市.

代田幸博(発表), 方堂祐治, 竹田康人, 若林時夫: Stent-stone complex を経て破壊されるに至った woven self-expandable metal stent 長期留置の一例, 第 117 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会, 令和 3 年 11 月 28 日, 石川県金沢市.

藤澤雄平(ポスター演題): 維持血液透析患者に原因不明の肝動脈門脈短絡を認めた一例, 第 66 回日本透析学会学術集会・総会(2021 年), 横浜.

宮永達人, 竹治明梨, 藤澤雄平(一般演題): レジオネラ症を契機に敗血症性ショック、横紋筋融解症、AKI となり血液浄化療法を行うも救命し得なかった一例, 第 51 回日本腎臓学会西部学術大会(2021 年 3 月 15 日~16 日), 福井.

武田 仁裕(一般演題): 感染性心内膜炎を合併した自己免疫性膵炎を有する 1 型糖尿病の一例, 第 95 回日本糖尿病学会中部地方会(2021 年 9 月 4、5 日), 三重.

Natsuko Mori, Akira Kobayashi, Tsubasa Nishino, Shigeto Fujimura,

Hideaki Yokogawa, Kazuhisa Sugiyama: Two cases of severe corneal damage after administration of anti-TNF- $\alpha$  preparation., Asia cornea society 2020, 令和 3 年 4 月, 大阪市.

森奈津子, 小林顕, 西野翼, 横川英明, 繰納勉, 杉山和久: 結膜弛緩症手術における Acutron の使用経験, 角膜カンファランス 2022, 令和 4 年 2 月, 金沢市.

山口裕行(発表): コロナ禍における当院緩和ケア病棟の取り組み, 第 7 回北陸緩和医療研究会, 令和 4 年 3 月, 金沢市(ZOOM).

齋藤優生(発表): コロナ禍における緩和ケア病棟の取り組み, 第 27 回石川緩和医療研究会, 令和 3 年 7 月, 金沢市(ZOOM).

高平真理奈: (オンライン発表): 当院における慢性心不全患者の現状と課題, 第 14 回看護実践学会学術集会, 令和 3 年 9 月, 金沢市.

高平真理奈: (オンデマンド発表): A 病院における心不全患者の実態調査, 第 74 回済生会学会, 令和 4 年 3 月, 神戸市.

北川カズ美(講演): 周術期管理チームの構築, 第 35 回日本手術看護学会, 令和 3 年 10 月 16 日~11 月 24 日, Web 配信.

北川カズ美(座長): 第 38 回日本手術看護学会北陸地区学会, 令和 3 年 11 月 20 日富山, 令和

3年12月24日～令和4年1月20日, Web配信.

森戸敏志(座長):金沢西地区薬剤師合同勉強会～Meet the Expert～, 令和3年4月, 金沢市.

森戸敏志(座長):石川県病院薬剤師会 学術研修会, 令和3年6月, 金沢市.

森戸敏志(講師):石川県薬剤師会 令和3年度実務実習指導者研修会, 令和3年6月, 金沢市.

森戸敏志(パネリスト):Ishikawa Pharmacy Director Seminar, 令和3年9月, 金沢市.

森戸敏志(講師):石川県糖尿病療養指導士研究会 令和3年度第1回研修会, 令和3年9月, 金沢市.

森戸敏志(座長):Advanced Pharmacist Seminar in 東海北陸, 令和3年9月, 金沢市.

森戸敏志(講師):なでしこ出前健康講座(福増苑), 令和3年10月, 金沢市.

森戸敏志(座長):金沢西地区薬剤師合同勉強会～Meet the Expert～, 令和3年11月, 金沢市.

森戸敏志(講師):石川県病院薬剤師会 臨床実習委員会 Wed 研修会, 令和4年1月, 金沢市.

森戸敏志(講師):石川県糖尿病療養指導士研究会 Wed 研修会, 令和2年, 金沢市.

後藤義之(講師):第43回新任薬剤師研修会, 令和3年7月, Web開催.

後藤義之(講師):当院緩和ケア病棟における病院薬剤師の取り組み, 第31回がん化学療法・緩和ケア研修会, 令和3年7月, Web開催.

後藤義之(講師):第19回石川県感染制御セミナー「COVID-19の薬物治療～第5波に備える～」, 令和3年8月, 金沢市.

後藤義之(発表):当院緩和ケア病棟における便秘治療薬使用状況の調査, 第31回日本医療薬学会年会, 令和3年10月, Web開催.

後藤義之(講師):第19回石川県感染制御セミナー「COVID-19の薬物治療の標準化を目指して～一人で悩まず皆で悩もう～」, 令和3年10月, 金沢市.

松岡未紗(発表):当院緩和ケア病棟における夜間せん妄と眠剤服薬状況の検討, 第31回日本医療薬学会年会, 令和3年10月, Web開催.

島崎沙織(講師):糖尿病治療の地域連携を考える～病院薬剤師の立場から～, 金沢西地区薬剤師合同勉強会～Meet the Expert～, 令和3年4月, 金沢市.

室田恵里(発表):整形外科手術予定患者の周術期管理における取り組み～入院前から退院後まで途切れ目のない薬学的管理を行うために～, 令和3年度学術研修会, 令和4年2月, 金沢市.

木村美代(講演):つどい場はなうめでの活動, 第47回地域緩和ケアカンファレンス, 令和3年6月8日, web(金沢大学附属病院).

木村美代(シンポジウム):つどい場はなうめでの活動, 第34回サイコオンコロジー学会, 令和3年8月9日, web収録.

木村美代(シンポジウム):コロナ禍でのがん患者支援の現状と課題, 北信がんプロ「がんサロンの活動を知らう」, 令和3年11月22日, web(県立看護大学).

木村美代(講演):就労にまつわるがん患者の気がかり, 産業保健センター就労支援セミナー, 令和3年2月25日, web(石川県健康福祉部).

## 4. その他

齋藤優生・多壽遼子(講義):緩和ケア病棟における緩和ケアの実際,金城大学看護学部看護学科成人看護学実習,令和4年1月,金沢市.

齋藤優生(講義):症状マネージメント, ELNEC・J コアカリキュラム看護師教育プログラム,令和3年9月,河北郡.

北川カズ美(教育委員):日本手術看護学会北陸地区役員会,令和3年4月～令和4年3月.

森戸敏志(臨床准教授):金沢大学医薬保健学域薬学類,令和3年度.

森戸敏志(寄稿):週刊薬事新報(令和3年11月25日号),医療を考える,「インスリン発見100年に思う」.

後藤義之(講師):2021年度医療薬学「心疾患」講義,北陸大学,令和3年9月,金沢市.

角紀一郎(外部評価者):薬学共用試験・客観的臨床能力試験,北陸大学薬学部,令和3年11月,金沢市.

梅下翔(演者):第2回いっしょに考えよう薬薬連携SDGs KANAZAWA,令和3年6月,金沢市.

梅下翔(司会):第3回いっしょに考えよう薬薬連携SDGs KANAZAWA,令和3年11月,金沢市.

梅下翔(外部評価者):薬学共用試験・客観的臨床能力試験,北陸大学薬学部,令和3年11月,金沢市.

梅下翔(講師):「緩和ケアで使う薬」について,石川賢がん安心生活サポートハウス学びの会「薬剤師さんと仲良くなろう!」,令和3年12月.

梅下翔(講師):まずはこれから!医療用麻薬の基本と実践,第2回百万石薬薬連携会～目指そう!!地域で取り組む緩和医療薬物治療法～,令和4年2月,金沢市.

木村美代(理事):特定非営利活動法人がんと暮らしを考える会,令和3年5月～令和5年5月.

# 【院内研究発表会】

MRI 検査時における音声映像システム併用の有用性について～安心快適な MRI 検査～

放射線部 ○木村 知樹 塚田 靖憲 大黒 直人 笠松 正夫 流 恵 太田 諭里

## 【背景】

MRI 検査は、長時間大きな騒音や狭い空間による圧迫感など特殊な環境に曝され、患者によっては不安や不快感を伴う。それらが原因で十分な検査が施行できなかつたり、中止することがあった。当院では、患者が安心して快適な MRI 検査ができるよう、2021 年 6 月にシーメンス社製音声映像システム『イノベーション』を導入した。

## 【目的】

音声映像システムを併用した MRI 検査において、圧迫感、不安、騒音について検査前後でどのように変化したかをアンケート調査し、システムの有効性を検討する。

## 【方法】

検査前後で、圧迫感、不安、騒音についてどのように変化したかをアンケート調査を行った。令和 3 年 9 月 1 日～12 月 24 日に当院で MRI を受けた患者 526 名（有効回答数 497 名）を対象とした。アンケート項目は、性別、年齢、MRI 検査の経験回数、音声映像システムの使用経験、検査前後の圧迫感、不安、騒音について 5 段階評価（平気、まあまあ平気、普通、少し苦手、苦手）、感想等とした。

## 【結果】

対象は男性 262 名（52.7%）、女性 235 名（47.3%）計 497 名であり、年齢層は高齢の患者が多かったが、10 代以下の患者も 15 名（3%）いた。MRI 検査の経験がある患者は 402 名（80.1%）であり、音声映像システムを併用した検査の経験がある患者は 42 名のみであり、ほとんどの患者が経験したことが無かった。検査前後の圧迫感、不安、騒音についての変化は、いずれも軽減傾向にあった。検査前に苦手、少し苦手であると回答した患者を対象とした場合、圧迫感では 63 名中 60 名（95.2%）、不安では 52 名中 51 名（98.1%）、騒音では 63 名中 62 名（98.4%）の患者が軽減されたと回答があった。風景や動物などの癒し系の映像が多く視聴されたが、男性ではスポーツ、若年ではゲームや子供向けの映像など、性別や年齢によって映像の種類が変わるという傾向がみられた。

## 【考察】

患者は、希望する映像や興味関心のある映像に集中することで、検査中の圧迫感や不安を軽減できたのではないかと考える。また、耳栓による防音と骨伝導による音声システムにより、MRI 機器からの不快な騒音が軽減し、必要な音声や音楽を鮮明に聴くことができたと考える。圧迫感が苦手な閉所恐怖症患者や、10 代以下の若年層でも検査が可能であったことから、今まで MRI 検査が施行できなかった患者にも、安心して快適な MRI 検査が提供できるのではと考える。

## 【結論】

音声映像システムを併用した MRI 検査は、圧迫感、不安、騒音などを軽減し、安心して快適な MRI 検査を提供できることがわかった。

## 新型コロナウイルス感染症への看護の振り返り

看護部（5B 病棟） ○宮野安里、高平真理奈、蔦直規、村田孝子

### 【目的】

当院では 2020 年 4 月から新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを開始した。隔離された環境下では、従来の看護が出来ない戸惑いや葛藤があった。また、未知のウイルスに対する不安や恐怖心もあった。流行毎に異なる症状の特徴、様々な変化にその都度対応しながら患者へ看護を行ってきた。当病棟に入院された患者への看護実践を振り返り、ここに報告する。

### 【方法】

2021 年 4 月～2021 年 9 月までの間に当院で新型コロナウイルス感染症と診断され入院した患者 241 名を対象とし、入退院時の症状の有無や症状の変化、患者の訴え、実施した看護などを電子カルテ診療録より後方視的調査した。

### 【結果】

第 1 波では、5B 病棟の 6 床をコロナ対応病床として確保し、発熱外来ドライブスルー PCR 検査を担った。急な対応を迫られ緊張と不安の中で試行錯誤しながら対応にあたった。PCR 検査を受けた患者が陽性となり、当病棟へ入院となった。患者、医療者とも未知のウイルスに対する恐怖心があった。第 2 波では、ホテル療養のスクリーニングのため 2 泊 3 日の入院患者の受け入れが開始された。第 3～5 波ではクラスターの発生、変異株の出現に伴う重症化・有症状患者の増加により、コロナ病床は 16 床に増床された。また、メディカルチェックセンターとしての役割が加わり、さらに緊急入院の患者の受け入れも行った。感染対策上、患者との接触を最小限に抑えながら看護を行う必要があるため、PPE を介した間接的に行う看護を主として関わった。制限下での患者対応に、もどかしさや難しさを感じながらも患者の不安が最小限になるように対応した。患者の訴えをもとに対応策についてスタッフ間で毎日のミーティングを実施し情報共有、意見交換を行いながら、看護実践に繋げた。他職種との連携、患者の個別性に合わせた介入方法をスタッフ全員で考え実施した。

### 【結論】

新型コロナウイルス感染症は流行株ごとに患者の症状に変化が生じており、不安の訴えも多く聞かれたが、患者の個別性を捉えながら看護を行うことが出来た。他職種と連携・協力が出来たことで個別性のある看護実践に繋げることが出来た。隔離され、制限された環境下でも患者にとって必要な看護を「出来ない」ではなく、「どうしたら出来るか」を考え取り組むことが大切と学びを得た。

整形外科手術予定患者の周術期管理における取り組み  
～入院前から退院後までシームレスな薬学的管理を行うために～

薬剤部 ○室田 恵里、松岡 未紗、橋本 夏恵、西川 達也、梅下 翔、清水 翔子、島崎沙織、  
青木 理恵、茶野下 貴恵、古本 真由美、岡田 久美、角 紀一郎、後藤 義之、森戸 敏志

[目的]

2018年4月より、整形外科手術予定患者に対し、整形外科病棟担当薬剤師が手術決定時に外来にて服用薬の確認と術前休止薬の提案を行っている。今回、整形外科病棟薬剤師の周術期管理への取り組みについて、介入状況の調査、評価を行い、課題や問題点について検討した。また、2021年12月より、手術入院前の保険薬局への情報提供、薬剤管理依頼を開始したので報告する。

[方法]

2021年4月～2021年12月に、整形外科病棟へ手術目的に入院した患者を対象とし、当該手術患者の内訳、入院前介入状況、提案した術前休止薬の内訳、術前休止薬提案の有無と採択可否、入院時の休薬実施状況について電子カルテで後方視的に調査を行った。

[結果]

期間中の整形外科手術患者 379 名の内訳は、緊急入院 174 名、予定入院 205 名であり、予定入院患者のうち外来介入あり 166 名（介入率 81%）、外来介入なし 39 名であった。薬剤師が外来介入した 166 名において、1 日の平均介入人数 1 名（1 日最大 6 名）、患者聞き取り及び電子カルテ記録の平均時間 14 分であった。提案した術前休止薬の内訳は、降圧薬、抗血小板薬、糖尿病治療薬、抗凝固薬、SERM の順であった。術前休止薬提案の有無と採択可否は、休止薬提案有り 62%、休止薬提案無し 38%、休止薬提案有りのうち、全て提案通りに休止となったのは 80%、一部提案通り 13%、全て提案不可 7%であった。休止薬提案があった患者 103 名のうち、医師の指示通り休止出来ており、かつ休止薬の提案漏れが無かったのは 101 名（98%）、休薬漏れ、休止期間の間違があったのは 2 名であった。

[結論]

手術患者の 98% が適切に休止薬を休止出来ている一方で、一部の患者では、休止期間間違い等があり、対策が必要であると考えられる。今回開始した入院前薬剤管理依頼書を活用し、保険薬局薬剤師とともに、薬学的知見のもと周術期管理を行うことで、患者の休止薬に対する理解度向上や休止薬忘れの防止に繋がると考えている。今後は、薬・薬連携を通じて、より安全な薬物治療とスムーズな入退院支援に貢献していきたいと考える。

## 腰椎後弯症患者に対して脊椎固定術を施行した前後の日常生活活動の変化と介入

リハビリテーション部 理学療法士 ○盛岡 哲也、間所 昌嗣、山川 友和、宮田 寛子

### 【はじめに】

脊柱変形が原因で腰部や下肢痛・痺れにより、立位や歩行といった日常生活動作に支障をきたす事がある。北村らは、脊柱後弯変形は加齢とともに進行し高齢者の6割以上に認められると報告している。豊根は腰椎後弯変形に伴う腰背部痛、立位歩行障害や胃食道逆流症などが高齢者のQuality of life;以下QOL)を低下させると述べている。腰部下肢症状を有し腰椎のずれや異常可動性がある、または高度な腰痛や腰椎変形にて固定術が考慮される。腰痛患者の疼痛、腰椎機能やQOLの評価に日本整形外科学会腰痛疾患問診票 (Japanese orthopedic association back pain evaluation questionnaire;以下JOABPEQ)を用いる事がある。

### 【目的】

腰椎後弯症患者の脊椎固定術前後の動作能力とJOABPEQを補助指標として用い、手術前後の改善点と残存した課題点をまとめ、手術後のリハビリテーション介入を検討する。

### 【方法】

対象は2020年12月～2021年10月に腰椎後弯症の診断を受け、当院で入院・手術予定の患者とし、手術前と退院時に身体状況と日常生活動作能力に加えてJOABPEQの質問表でデータを収集した。情報収集は入院日数を考慮せず、手術前・退院時のいずれかのデータが欠損している場合は除外した。JOABPEQとは全25問の質問に加え腰痛の程度、臀部・下肢痛の程度、臀部・下肢の痺れの程度をVisual analog scaleで評価し、重症度を評価する為に各質問を重み付けし、①疼痛関連障害②腰椎機能障害③歩行機能障害④社会生活障害⑤心理的障害に分類して点数化する。各100点満点で評価し、高値ほど結果が良好である。

### 【結果】

手術前にJOABPEQを収集出来たのは8例、手術前・退院時に収集出来たのは3例であった。対象は女性、年齢は75.3±6.23歳であった。手術前は疼痛関連障害が23.7±13.7点、腰椎機能障害が52.7±20.8点、歩行機能障害が14.0±9.9点、社会生活障害が22.7±15.5点、心理的障害が43.3±5.4点であった。退院時は疼痛関連障害が71.0±40.5点、腰椎機能障害が44.3±19.3点、歩行機能障害が47.3±33.5点、社会生活障害が46.0±22.6点、心理的障害が62.0±14.4点であった。退院時は手術前に比べ、疼痛関連障害、歩行機能障害、社会生活障害、心理的障害は改善傾向にあり、腰椎機能障害は低下傾向であった。

### 【考察・結論】

一般的に全腰椎の可動域は屈曲が40～50°、伸展が15～20°とされている。しかし、固定術により体幹全体の可動性が低下し、患部保護のためにも股関節の運動も控える必要がある。また過度な股関節運動が加わる事で、河井は腰椎固定術後の股関節は関節裂隙の狭小化や変性が進行するリスクが上昇すると述べている。手術後のリハビリテーションは単一の関節に負荷が集中しない姿勢や歩行、日常生活動作の指導が必要である。また固定術後より、体幹屈曲に伴う動作が困難になる事が多く、補助具の提案や動作練習が重要と考えた。

## 救急外来における入院前面談の導入

看護部（入退院支援室） 松田 真由美

### 【はじめに】

入退院支援とは患者および家族が病気や障害を理解し、退院後も継続が必要な医療や看護を受けながら「どこで、どのような生活を送るか」を自己決定するための支援をさす。

入院前面談は入院前に面談を行う事で患者の心身・社会的状況に関する情報を聴取し退院困難となる要因の有無を評価することを目的とし退院支援の第一段階と言える。

当院では2021年度896名の患者に対し入院前面談を実施したが救急外来からの入院患者に対しては行われていない。救急入院では患者に関する情報の不足が生じやすいことや、平均12.9日入院期間が延長するという当院のデータもある。また突然の入院による患者や家族の心理的動揺も大きいと予測される。そこで継続的な医療・看護を提供すること、円滑な退院調整を進めることを目的に救急外来での面談を実施した結果を報告する。

### 【実施の方法】

- 1 面談対象者：救急搬送者のうち入院となった患者・家族および院外の関連職種担当者
- 2 実施期間：令和3年8月1日～31日
- 3 面談内容：感染スクリーニング、搬送経緯・症状、日常生活の状況、既往・治療歴、家族情報（家族構成、キーパーソンの確認、家族の状況）、患者・家族のACPに対する認識や理解
- 4 記録：ダイナミックテンプレート「入院前面談」に記載し関連職種と共有
- 5 ソーシャルハイリスク患者についてはMSW・OCNに情報提供と介入を依頼

### 【結果】

- 1 31事例について入院時面談を実施し、そのうち65歳以上の高齢者は25名
- 2 介護保険利用者は31名中19名
- 3 救急からMSW・院内外の担当者に情報提供・介入依頼を行った事例（10事例）  
MSWに情報提供：6事例、救急での介入依頼：2事例、OCNに介入依頼：2事例

### 【結論】

- 1 救急外来からの入院者について31事例に入院時面談を実施した
- 2 31事例中、介護保険申請済みは19名で要介護1～3の患者が多く、退院時にケアプランの変更や入所施設の変更が必要となった患者がいた
- 3 退院困難要因ありと評価された患者は独居・介護力不足・経済的困窮・終末期などソーシャルハイリスク要因を抱えていた
- 4 入院時面談を行うことで家族や院外関連職種に対するサポートができた

## 【第74回済生会学会 発表論文】

令和4年2月26日(日)

於:オンデマンド(動画再生)

発表論文	部署	発表者
地域包括ケア病棟開始後の回復期リハビリテーション病棟の変化	リハビリテーション部	山川 友和
薬剤管理サマリーを介して退院後の薬物療法を支援できた一例とその取り組みに関する課題の検討	薬剤部	西川 達也
慢性心不全患者の現状と当院の課題 ～慢性心不全看護認定看護師の立場から～	看護部	高平 真理奈
摂食・嚥下チームの活動紹介 ～「摂食・嚥下ケアの手引き」発行に向けて～	摂食・嚥下チーム	岸谷 都

## 【看護部事例発表会】

12月15日（水） 17時15分～19時10分

於：第1、2討議室

NO.	発表名	病棟・発表者
1	「終末期患者の食べることの意味」	4B病棟 坂井彩乃
2	「認知症患者の関わりを振り返って ～生活リズムを整えることの大切さ～」	4A病棟 益田愛理
3	「心不全と不安神経症をもつ患者との関わりを振り返って」	5A病棟 安田稔実
4	「術後の離床に対して意欲が低下している患者との関わりを通して学んだこと」	4B病棟 山岸彩乃
5	「涙を流す患者の対応から学んだこと」	健診センター 長浦彩夏
6	「嚥下障害のある認知症患者との関わりを振り返って」 倦怠感が患者に及ぼす影響～身体的倦怠感と精神的倦怠感～	5B病棟 松下未来
7	「認知症患者の療養環境を整えることから学んだこと」	4A病棟 丹野千恵
8	「治療継続困難となった患者との関わりを振り返って ～情緒的苦痛緩和に向けて～」	4B病棟 星野朱里
9	「ADLの低下したA氏とその妻に退院支援をして学んだこと」	5A病棟 前川佳央里
10	「多職種での退院支援による患者の変化」	4B病棟 柴田直実
11	「糖尿病患者へのチーム医療と個別性に合わせた指導 ～外食時に薬を携帯せず、内服していなかった患者との関わり～」	5A病棟 中田麻琴
12	「新型コロナウイルス感染症により入院した患者の看護を通して学んだこと」	5B病棟 寺本有菜